

心豊かでたくましい児童生徒を育む
小中一貫教育をめざして

シリーズ えでゆれば

Vol.⑧

小中一貫教育がもたらすもの 〜異年齢集団の交流による 「あじがれ」と「思いやり」〜

小中一貫教育に関する質問には、中学生の問題行動が小学生に悪い影響を与えるのではないかと？小学生が萎縮してしまうのではないかと？といったものがあります。

兄弟や地域での縦のつながりの中で学ぶ（遊ぶ）機会が減少する社会の中では、小中一貫教育や幼小連携・中高連携といった環境の中で経験する異年齢集団の交流が、上の子に対するあじがれや、下の子に対する思いやりの心を育むと言われています。

8月10日から12日までの3日間、「三戸小学校寺子屋」と銘打って三戸高等学校の生徒が三



戸小学校の児童に勉強の支援をしました。

- 1 高校生の支援内容
- 2 宿題やプリントの丸付け
- 3 解き方のヒントを与える
- 4 マンツーマンでの学習支援
- 5 勉強方法のアドバイス

寺子屋では、高校生が小学生のやってきた夏休みの課題を丸付けしました。小学生は間違った問題を直して再び高校生に見てもらいます。解けない児童にはヒントを与えたりマンツーマンで指導したりして、課題を終えることが出来るよう支援してました。小学生は夏休み帳を一冊やり終えて達成感を味わうことが出来ました。

時間の制約がある中で担任の先生が一人で何人もの丸付け添削をするのでは、児童は先生に質問しにくいものです。しかし、寺子屋では多くの高校生に個別に聞ける安心感からか、気軽に質問することが出来たようです。参加した小学5年生の男子は「一人で勉強していると、分からない問題でつまずいて、時間だけが過ぎてしまう。寺子屋だとすぐに個別で教えてもらえるので、すごく良いと思う」と笑顔で答えてくれました。

教える側の高校生からは「教えることで自分にとっても勉強になった」「小学生の問題を見ることが自分の成長の過程を振り返ることが出来た」「決して勉強が得意な方ではないが、自分なりに考えて教えることが出

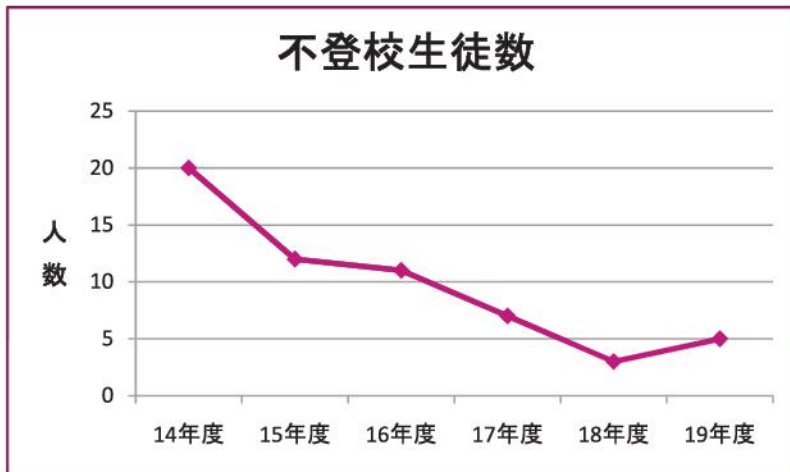
来たので自信が持てた」など前向きなコメントが多く出ました。

小学校の先生からは「内容は自分たちが繰り返し話していることと同じだが、年が近い高校生からのメッセージになると受け入れやすかったようだ」「身近にある筆入れを使って立方体の説明をしているのを見たとき、高校生の分かってもらいたいという一生懸命な気持ち伝わってきた」と寺子屋実施の効果を実感しているようでした。また、小学生は夏休み崩れがちな生活や学習リズムを崩すことなく、2学期の学習にスムーズに入れたということです。

たった3日間の寺子屋でしたが、町で会ったときに高校生が声をかけてくれた、秋祭りでもコミュニケーションがとれたなど、地域内の縦のつながりが生まれたという声も聞かれます。

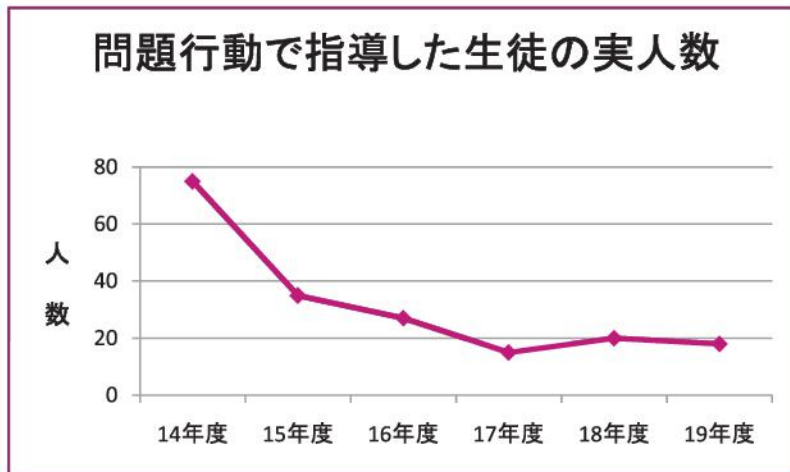
冒頭で出たような小中一貫教育に対するイメージはあるかも知れませんが、小中一貫教育の導入で目に見えて変化が出るのは中学生の不登校や問題行動の減少です。

平成12年度から小中一貫教育の研究を始めた広島県呉市では、次のグラフのような結果が出ています。



中学生は身近にいる小学生を見ることで自分の成長の過程を振り返ることが出来ます。そして、小学生にとって頼れるリーダーでありたいと願うようになります。小学生はそんな中学生を間近で見て自分もそうなりたいと願うようになります。

呉中央学園での研究結果より



今回の例は小学生と高校生の連携を取りあげましたが、三戸町の小中一貫教育には、異年齢集団の「ともに学びともに育まれる」という願いが込められています。

開校委員会がスタートしました

平成25年4月の三戸地区小中一貫教育学校開校にむけて「三戸地区小中一貫教育学校開校委員会」が発足しました。8月30日の第1回委員会で、委員長・副委員長の選出を行い、検討課題やその検討方法について、話し合われました。

今後、この開校委員会で学校の「呼び名」や「校歌」・「校章」等の開校に向けた課題が検討されることになります。

三戸地区小中一貫学校開校委員会委員名簿

役職等	氏名
三戸小学校保護者	藤原文雄 ◎
三戸中学校保護者	井畑哲夫 ○
小中一貫推進アドバイザー	丹新也
三戸小学校教頭	原寿
斗川小学校教頭	小坂尚
杉沢小学校教頭	盛裕子
杉沢中学校教頭	外崎隆治
三戸中学校教頭	福井淳悦
斗川小学校保護者	佐藤誉保
杉沢小中学校保護者	大平雅彦
三戸小学校後援会	梅田晃
三戸中学校後援会	松尾道郎

◎が委員長、○が副委員長



第1回委員会の様子